

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0193500253		
法人名	株式会社 元気な介護		
事業所名	グループホーム くらしさ室蘭		
所在地	室蘭市幸町12-10		
自己評価作成日	R6.2.25	評価結果市町村受理日	令和6年4月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kihon=true&JigyosyoCd=0193500253-00&ServiceCd=320](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0193500253-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	令和6年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

それぞれの利用者様が「自分らしい暮らし」を送れることに主眼を置き、研修の他ミーティングでの意見交換により個々のスキル向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、室蘭市の南側方向の高台にあり、JR室蘭駅から徒歩圏内にある住宅地に位置する2階建て2ユニットのグループホームで、小規模多機能型居宅介護事業所を併設している。法人は、札幌本社で道央圏や胆振管内、関西地区で介護事業所を展開しているグループ会社で、認知症高齢者グループホームや小規模多機能居宅介護事業所、訪問介護・看護、居宅介護支援、サ高住や住宅型有料老人ホームなどを幅広く運営している。当事業所は、2020年5月に有料老人ホームから建替え移行して開設し、以前から地域の関わりもあるが、コロナ感染症対策で制限していた。これからは、地域との交流や外出行事を再開する予定である。若い職員が多く、和やかな雰囲気、24時間情報共有のITシステムを活用したケア記録で、合理的な取組を実践しているホームだ。認知症高齢者の事業所としてこれからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
		2 利用者の2/3くらい			2 家族の2/3くらい
		3 利用者の1/3くらい			3 家族の1/3くらい
		4 ほとんどつかんでいない			4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
		2 数日に1回程度ある			2 数日に1回程度
		3 たまにある			3 たまに
		4 ほとんどない			4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
		2 利用者の2/3くらい			2 少しずつ増えている
		3 利用者の1/3くらい			3 あまり増えていない
		4 ほとんどいない			4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
		2 利用者の2/3くらい			2 職員の2/3くらい
		3 利用者の1/3くらい			3 職員の1/3くらい
		4 ほとんどいない			4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
		2 利用者の2/3くらい			2 利用者の2/3くらい
		3 利用者の1/3くらい			3 利用者の1/3くらい
		4 ほとんどいない			4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
		2 利用者の2/3くらい			2 家族等の2/3くらい
		3 利用者の1/3くらい			3 家族等の1/3くらい
		4 ほとんどいない			4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		1 ほぼ全ての利用者が			
		2 利用者の2/3くらい			
		3 利用者の1/3くらい			
		4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と事業所の理念を玄関と職員の目に付く所に掲示し、理念の共有に取り組んでいる。採用時研修においても資料を基に説明を行っている。	理念は、事業所内に掲示し、利用者や家族にも周知するよう努めている。職員は、ミーティング時に振り返りをして、職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ対策でボランティアの受け入れや買い物の自粛をしており、交流は出来ていない。	町内会の役員や民生委員など日常生活の中で関わりがあり、雪かきや物のプレゼントなど互いに声掛けや挨拶し、地域の一員として日常的に交流している。	地域の一員として認識されているが、地域の行事や事業所の行事などに相互に参加交流することに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナ対策として、地域の方の受け入れはしていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている	会議での質問内容や経過を報告し質問・意見・要望を受け、互いに意見交換を行いサービスの工場に活かしている。	運営推進会議は、家族や町内会役員、地域の方が参加して、定期的に関催し、情報交換や意見交換をして、サービス向上に活かしている。しかし、室蘭市担当者や地域包括支援センター担当者の参加がない。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営に関する質問や変更事項については市町村に相談し回答を得ている。状況に合わせて担当者との相談を都度行っている。	相談や手続きなどは直接室蘭市役所と対応している。地域包括支援センターとは、必要な都度連絡して協力関係に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修にて、施設の方針や身体拘束の悪影響について職員への周知を行っている。日中は玄関の施錠はせず、思いの傾聴や気分転換の活動を行っている。	事業所内に身体拘束適正化委員会を設置して、3ヶ月に1回検討会を行っている。内部研修も定期的実施しており、指針やマニュアルを整備して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修にて虐待事例等を周知し、施設内での虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象となる利用者様はいない。熟知している職員と知識が浅い職員との差がある。必要な制度があれば積極的に関係者と相談して活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約または改定等の際には、入居者様・ご家族には十分な説明の上ご理解いただき、契約の締結・解約等を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からはご面会時や電話等にて意見を伺っている。利用者様からは日々の関わりを通して思いの傾聴を行っている。	ホーム便りは毎月発行して、家族へ運営状況の報告をしている。また、利用者個別の生活状況の手紙と写真も送付して報告している。玄関に意見箱を設置しているが、家族からの意見や要望は来訪時や電話等で聞き取り、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議等で職員の意見を聞き、運営に反映させている。	ユニット会議はカンファレンス兼ねて、月1回定期的に開催している。個人面談は、年2回夏と冬に定期的に行っているが、他に必要により都度実施もしている。職員からの意見や提案は運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課による評価を行い、面談において個人の目標や希望等を聞き取り、意欲向上に務めている。 また、状況法に応じ臨機応変に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は力量に応じて役割を与えたり、育成の為に研修に積極的に参加するよう働きかけている。新入職員への研修は勤務体制を考慮し優先的に参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	行政等が開催する様々な研修に参加し、交流や意見交換を行っている。また、グループホーム連絡買いに加入し他の施設との交流も図っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様と話し合い、7不安や要望を確認しながら信頼関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族から要望を伺い、ケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に確認している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員や他社との共同生活が楽しみのあるものになるよう一緒に考えていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡等で話し合いご家族との絆を大切にしながらもご本人様を支えあう関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人が気兼ねなく面会に来れるように配慮している。	友人や知人は度々来訪して楽しく面談している。家族は1週間に2～3回来訪している。理美容室は訪問で来ており、スーパーなどへの買い物は車で職員が同行して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士と一緒に洗濯物をたたんだり等関わり合い、支え合えるような支援に努めている。座る位置にも配慮し、孤立しないよう見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や退去後も状況に応じご家族に状態確認し相談に応じ対応している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中からご本人様の思いやご家族の意向を聞いて、職員で話し合いご本人様の思いに沿った生活の実現に努めている。	意思表示ができる利用者が殆どな為、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討して対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時や入居後の余暇時間に、ご利用者様の暮らしや生活歴を把握し日々の生活に活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	フロア会議等で意見交換を行い、職員の意識の統一を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画を立てる際はご本人様やご家族から意見を聞き反映させている。職員同士の日々の話し合いやミーティング等でモニタリングを行い、介護計画を見直している。	職員間で24時間共有のITシステムを活用して、利用者の様子や家族からの意見や要望、主治医の意見等も情報共有しており、月1回のカンファレンスで検討し、計画作成担当者がそれを集約し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を具体的に記録に記入し、情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の希望や家族の意見をその都度確認しその時々ニーズに応えることが出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策のため、地域の方やボランティアの受け入れは行わなかった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様及び家族が希望される医療機関をかかりつけ医とし受診の支援を行っている。また主治医への状態報告や指示受けを確実に行い、医療機関との関係づくりに努めている。	協力医療機関の往診は月2回で、他は家族または職員が同行して受診支援している。訪問看護は週1回で、24時間体制の適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは相談し合いながら利用者様の健康管理に努めている。必要時は往診以外にも連絡を取れる体制になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には家族やSWとの連携を行い、状況と希望に応じた最善かつ最短の隊員ができるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	主治医より看取りを宣告された段階で終末期の過ごし方を看護師等と連携の下、ご本人様や家族の希望に沿えるように今後の支援体制について話し合いを行うこととしている。	重度化や終末期の対応は、入居契約時に説明し同意を得ている。重度化した場合は、主治医との打ち合わせにて、医療行為は伴わない状態のみ看取りの対応としており、主治医の指示の下、連携して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制を作成している。施設内研修にて緊急時対応についても学ぶ機会を作っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回施設全体で防災訓練・避難訓練等を行っている。	避難訓練は、年2回定期的にも実施しており、備蓄や備品も整備して災害対策を行っている。感染症対策BCPと自然災害対策BCPも作成して整備しており、地域との協力体制も継続するよう努めている。	
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないよう場所や声の音量、さりげない言葉掛けに注意をしている。また個人情報情報の保管には家族・職員以外見られないように配慮している。	人格の尊重とプライバシーについては、法人で接遇研修を定期的に行っており、事業所内でもスピーチロックなどの指導も行っており、人格を尊重した言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が表現できるような環境を整え自ら行えるように声のかけ方を工夫している。意思判断が難しい方には表情や仕草などで捉えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個々の生活リズムや興味、趣向を確認し、日々の暮らしの中で取り組んでもらえるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を整えたり好みの服を選んでもらったり、その人らしいおしゃれが出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や後片付けは個人の得意分野を活かしそれぞれ出来ることを職員と一緒にやっている。季節の食材を取り入れ、食べやすさや彩りにも配慮している。	献立や食材は外部委託で、調理は職員が担当している。利用者は食事の準備や片付けを手伝っている。行事食は月1回で、手巻き寿司やバーベキュー、ハンバーガーなど。食事レクでは、皆で作るケーキやお好み焼き、たこ焼きパーティーなど楽しみな支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録に残し、必要な栄養・水分の確保ができるように支援している。特に水分摂取量の管理が必要な利用者様に対しては細かく摂取量の確認を行ったり本人が好み飲み物		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促している。仕上げが必要な方には一部介助および全介助にて仕上げを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄が出来るようにトイレ誘導や声かけを行うなどしている。入院時にオムツを使用されていた方についても出来るだけトイレ誘導し徐々にトイレでの排泄に戻せるよう努めている。	ご自分で意思表示できる利用者が殆どだが、排泄チェック表で利用者毎の排泄パターンを把握し、時間を見ながら声掛け誘導し、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便状況や水分摂取量の確認を行い、看護師等から飲食物等に関するアドバイスを受けている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	ご本人の希望に合わせ、入浴の順番や時間帯を決めている。	入浴は週2回で、午前中と午後で3人位となっている。本人の希望や状況に合わせて、入浴剤を使用するなど個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員は個々の睡眠パターンを把握している。眠れない方がいれば落ち着いて休むことが出来るよう環境を整えたり言葉掛けを工夫している。日中1人になりたい時や昼寝がしたい時は自由に休めるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を支援記録の個人ファイルに保管しいつでも確認できる状態になっている。わからないことは薬剤師に相談したり調べて確認している。服薬時は個人に合わせて手渡しし内服するまで確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や職歴などの情報収集を行いやりがいや喜びを感じて頂くことの出来る活動やレクリエーション活動を心身の状態に合わせて1日の活動として取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策のため、外出は行わなかったが、天気が良い日などは施設周辺の散歩にお連れするなどして気分転換を促す。	近隣の散歩や外気浴は日常的に支援している。コロナ感染症対策で、外出は制限していたが、これからは、桜のお花見や果物狩り、ユニット毎にレクリエーションや外出行事、夏祭りで炭火のバーベキューや登別の温泉など多様な外出行事を企画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は自由に所持出来るようにしているが、個々の状態に合わせて主にホームで保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればいつでも使用出来るようになっている。ご本人あての郵便物も受けている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや居室等、入居者様が居る場所は常に過ごしやすい生活を保っている。また、入居者様と一緒に作った物を置いたり飾ったりして居心地よく過ごせるように支援している。	リビングや食堂を中心にしたL字型の配置の室内で、整理整頓され、明るく風通しもよく、温度や湿度も管理された共用空間である。利用者の作品や行事の写真などが壁に掲示され季節を感じる。利用者は、リビングで和やかに寛いで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファやダイニングテーブルを置き利用者様は思い思い自由に過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具や日用品は自らが自宅で使い慣れた物を持ち込んだり家族で相談して気に入ったものを購入して使用して頂いている。	居室には、ベッドと防災カーテンが設置している。利用者は、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人のわかる力の把握をするため、職員間で情報交換をしている。また混乱を起こした原因に対して速やかに検討し対応に努めている。		